

2025 AUTOBACS SUPER GT Rd.5 SUZUKA GT 300km RACE REPORT



SUPER GT 2025 第5戦 SUZUKA 300KM RACE レースレポート

開催日：公式予選 8月23日(土)／決勝 8月24日(日)
開催地：三重県 鈴鹿サーキット

予選レポート

富士スピードウェイで行われた第4戦は、史上初となるスプリントレース方式が採用された。ドライバー交代もなく、ひとりのドライバーが予選と決勝すべてを担うスタイルとなり、レース1では阪口良平選手、レース2では富林勇佑選手がそれぞれ担当。クルマのパフォーマンス向上に取り組みつ、1.5ポイントを持ち帰った。そんな第4戦を経て、9号車「PACIFIC アイドルマスター NAC AMG」は、3週間後の8月23～24日開催の「2025 AUTOBACS

SUPER GT Round.5 SUZUKA GT 300KM RACE」へと挑んだ。

今回の舞台となる鈴鹿サーキットは、5月にテストも行っており、多くのデータを収集してセットアップを作り上げ、なおかつ好感度も実感。さらに、前回の富士で抱えていた問題を解消すべく、チームと中日本自動車短期大学(NAC)の学生メカニックは今回の300kmというレースに向けて万全な準備をして挑んでおり、いつ



も以上に気が引き締まるものとなった。今回ドライブする阪口選手と富林選手も、走り始めとなった公式練習から予選Q2進出と決勝に向けて準備を進めた。

公式練習は予選日となる8月23日(土)の午前10時20分にスタートした。気温32度／路面温度42度という酷暑の中、9号車「PACIFIC アイドルマスター NAC AMG」は8周毎にアウト～インを繰り返しながら阪口選手と富林選手が交互に乗り込み、クルマのフィーリングを確認していく。朝から青空が広がり、セッション中は気温と路面温度ともに上昇しタイヤにとって厳しい状況ではあったが、事前にテストをしていたことでタイヤ選択にも迷いはなかった。そのため、予選に向けたセットアップを中心に取り組んだ。

阪口選手は計16周をこなし、終盤は富林選手に託してアタックシミュレーションを行い、終了間際には1分59秒597をマーク。10番手につけ、好発進を決めた。富林選手も「今季いちの仕上がり」と口にするほど、ポテンシャルの高さを実感。また、前回の富士で抱えていた問題も解消され、さらにセットアップも良い方向へ進み、手応えを感じた状態で予選へと臨んだ。

午後にかけても強い日差しが差し込み、気温35度／路面温度47度まで上昇する中、午後3時15分に公式予選が始まった。予選Q1のB組に出走した9号車「PACIFIC アイドルマスター NAC AMG」は、予選Q2進出に自信をもっていたものの、それをより確実にするべく富林選手がまずはステアリングを握った。入念にタイヤを温めてアタックへ臨むと、終盤に1分58秒399を叩き出す。ヨコハマタイヤユーザーの中でトップとなる3番手につけ、クルマの速さを証明。Q2の阪口選手に繋いだ。

GT500クラスのQ1をはさみ行われた予選Q2では、上位グリッド獲得に向け阪口選手が乗り込んだ。4周目からアタックを行い、まずは1分59秒046をマーク。2周連続でアタックを行いセクター1、4で自己ベストを上回るも、タイヤのスイートスポットを逃してしまい1分59秒067とわずかに更新することはできず。17番グリッド獲得となった。ただ、レースペースの良さはすでに確認済み。加えて上位勢はサクセスウェイト、さらに給油時の燃料リストラクターのハンディキャップがあるチームもいるため、決勝ではピットのタイミングでアンダーカットを狙い、上位を目指した。





決勝レポート

8月24日(日)、朝から多くのファンが訪れた鈴鹿サーキットの上空には引き続き青空が広がり、気温35度／路面温度52度と猛暑日に。ピットウォーク、午後2時からの20分間のウォームアップ走行を経て、いよいよ15時30分に決戦の刻を迎えた。パレードラップとフォーメーションラップを終え、ついに52周で争われたレースが幕を開けた。

スタートドライバーを務めた阪口選手は、17番手をキープしレースを進める。序盤から追い上げようとしていた矢先、GT500の車両がクラッシュしたことにより、4周目からSC(セーフティカー)が導入された。10周目にリスタートが切られたが、ミニマムの周回数でピットに入ること



を決めていた9号車「PACIFIC アイドルマスター NAC AMG」は、15周目にピット作業を行い、阪口選手は安定したペースで順位を守り抜き、富林選手へとステアリングを託した。

ピットのタイミングでアンダーカットを狙うべく、NACの学生メカニックが一丸となって、4本すべてのタイヤ交換と給油を行い、富林選手を送り出す。ただ入ったタイミングこそ悪くなかったものの、ややピットワークに手間取ってしまい、ピットロード上でライバルに先行を許してしまう。さらに、追い討ちをかけるようにまさかの事態が襲った。ピット作業時に燃料給油中の作業違反があったとされ、ドライブスルーペナルティが科せられることに。

26周目にペナルティをこなしたが、16番手から最後尾まで順位を下げることとなり、大きな痛手となってしまった。しかし、レースウィークを通じて手応えを感じていたペースの良さを活かして挽回すべく、



富林選手は好走を披露。36周目には終盤にも関わらず、レース中のベストラップとなる2分00秒486をマークして追い上げを図った。さらに、トラブルやアクシデントで順位を下げるライバルたちも相次いだことが追い風となり、41周目には22番手に浮上した。

ピットイン後、終始前を走る25号車「HOPPY Schatz GR Supra GT」を仕留めるまでには及ばなかったが、圧倒的なペースの良さと戦闘力を示して22位でチェッカーを受けた。また、レース後には上位の1台に失格という裁定が下ったことから、9号車「PACIFIC アイドルマスター NAC AMG」は最終的に21位という結果

で終えた。上位入賞およびポイント獲得とはなかったが、前回の富士大会から大幅なクルマのポテンシャルの向上も感じられ、チームにとっても収穫の多い1戦となった。

また、今回においては競争力の高さにはドライバーも口を揃えており、阪口選手も「GT3マシンは触れられるところが限られてはいますが、ひとつの場所において重要性があり、今回はそれを組み立てることができたので、スピードを出すことができました」と評価していた。ピット作業違反は今回のレースにおける反省点だが、チームとNACの学生にとっても今後に向けて貴重な経験となった。

レースを重ねるごとにクルマだけでなくチーム力や競争力も向上している。今回の経験を活かし、残りの3戦はさらなる上を目指すべく入念に準備を進める。約1カ月後の9月20～21日に宮城県・スポーツランドSUGOにて開催される第6戦SUGOも引き続きチーム一丸となって戦っていく。



Comment



総監督 岡田健司

今大会も多くのご声援を賜りありがとうございました。酷暑の中でのレースとなりましたが、今回は事前テストから手応えを感じていただけて非常に高いパフォーマンスを示して戦ってくれました。上位も狙えるポテンシャルがあっただけにピット作業違反は非常に残念でしたが、失敗も経験のうちですし今後の活動においてもプラスとなるでしょう。次戦の SUGO では今大会以上の成績を目指して準備を進めてまいります。引き続きご声援のほどよろしくお願いいたします。

予選ではうまく噛み合わず、決勝では挽回して富林選手に繋げようと思い集中力を高めて臨みましたが、前を走るレクサス RC F 勢との特性の違いによって抜きあぐねていた時に SC が出てしまいました。ピットイン時は良い状態で入ることができましたが、ペナルティが出てしまったのは残念です。NAC の学生も経験していかないと分からないことだと思いますし、しっかり前向きに成長していけるようなチームづくりをしていきたいですね。次戦の SUGO は鈴鹿に近い部分やコーナーもあるので、繋がる場所があると思います。僕たちのパッケージングの中で最大限出すことが大事なので、今回はしっかりと走り切ってデータを収集できたので、次のレースに向けて切り替えて準備をしていきます。



阪口良平 選手



富林勇佑 選手

ペースはとても良く、メルセデス AMG 勢とヨコハマタイヤユーザーのトップ車両よりも速く走ることができました。週末を通して一発の速さとロングランのペースを見てもクルマの完成度が高く感じました。これはメカニックや NAC の学生が頑張ってくれた賜物です。表彰台を狙えるクルマだっただけにピットワークや作業面、ピットのタイミングが上手く噛み合わなかったのは少し残念でしたが、NAC の学生にとっても良い経験になったと思います。みんなの努力でひとつステップアップできたと思います。あとはドライバーの力量とミスなく終わることができれば表彰台や優勝も狙えると思うので、次戦 SUGO に向けてもセットアップを含めて良いクルマを作っていきたいと思っています。





PARTNER



THE IDOLM@STER™ & ©Bandai Namco Entertainment Inc.



SPONSOR

